

# 八剣山通信

2012年3月26日  
発行：八剣山発見隊

## 2012 果樹剪定講習会開催される

3月25日(日)午前10時から小雪の舞う砥山ふれあい果樹園において、市内一円から30人の受講者を迎え恒例の果樹剪定講習会が開催されました。

実際に農業を営み果樹栽培を営農に取り入れる計画を持っている人や、自家用の果樹の世話をど



【小雪舞う園内を移動する受講者】

のように行すべきか教わりたいという人々が熱心に学びました。

この講習会は2005年から行われ、今回は8回目となります。今年は3月に入っても気温が低く園内にはまだ50cm余の積雪があります。講習はリンゴとサクランボ各1本について京谷講師による説明と実際の剪定を見てもらう形で進められました。以下は講習の要旨です。

### 【剪定の実際】



【剪定の方針を説明する京谷講師】

**【まず樹を観察】** 樹高約3mのリンゴの若木から開始。剪定ではまず太陽を背に受ける位置に立ち、対象樹の全体を観察することから始める。勢いよく伸びた徒長枝の量などから樹の勢いの良し悪しを見極め、大きな部分から整理していく。込み合っている所があれば、必要に応じて整理する枝を決め、元から全部とるか、あるいは縮小する。また、枯れ枝や病気に侵されて回復の見込みが乏しいものはとってしまう、といった剪定の基本が一枝ごとに丁寧に話されました。講師の大胆なハサミさばきに、「自分ならあの枝は切れないな

あ」という受講者の声や活発な質問も出され、剪定の奥深さを知る講習となりました。しかし、講師の「誰がやっても100点満点の剪定もないし0点の剪定もない」という言葉に、皆が安心した様子でした。

### 【骨組みとなる枝を決める】

全体的な方向性①隣接し競争する枝を整理する。②車枝を置かない。③剪定は主枝の先端から基に向かう。④主枝の先端を頂点として60度くらいの角度に枝が収まるようにする。



【のこぎりも使う】

実際の剪除①樹形を乱す徒長枝、垂直枝、内向枝、逆向枝。②強く伸ばしたい枝は先端を少し切りつめる。③同じような勢力を持つ二股枝は作らない。④枝が重なる場合は上下1mは間隔を置く。⑤弱い枝は方向に関係なく置ける。

### 剪定の目的・効果

- ①主枝、亜主枝、結果枝の順序を明確にして、秩序立った樹形にする。結果として樹全体にまんべんなく陽が当たるようになる。
- ②果実が樹冠の中で均一に配置され、商品性の高い果実が揃って得られる。
- ③それぞれの果実に十分に栄養が行き渡るため、食味、外観(着色)サイズの優れた果実が生産される。
- ④枝数が制限されるため、結実数も減り、摘果の労力が軽減される。
- ⑤収穫、摘果などの作業性が向上する。
- ⑥脚立が入れられる等、作業がしやすいようになる。

### 講師ご紹介

京谷英壽さん

前職：北海道農業研究センター  
果樹研究室長  
果樹研究の第一人者として現在も  
果樹農業の指導に当たっている。





# 八剣山発見ウォーキング実施

3月に入り陽光に春の柔らかさを感じる4日、11日の日曜日に八剣山山麓で雪中ウォーキングが実施されました。真新しいスノーシューも吉田隊長の尽力によって準備され、新たなイベントに期待が高まりました。



【八剣山を背に出発】



【まず履き方から】



【このようになります】

4日は参加者のほとんどがスノーシューを初めて使うため、吉田隊長から履き方、歩き方、急斜面の登り方を教わり快適なウォーキングとなりました。新品のスノーシューを着けて午前10時に八剣山果樹園を出発し、夏季は笹や雑草が生い茂り入ることのできない樹間のコースを八剣山を回り込むように北西側まで登りました。片道

約1.5kmのコースは変化に富んでいて、急坂では習いたてのスノーシューの前側のツメを雪に食い込ませるようにする歩き方で苦労なく登りました。また、コース中には多分キツネと思われる足跡もあり、



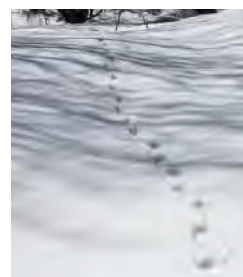
【急斜面を登ります】

角度によって変わる周辺の山並みや澄み切った空気と共にウォーカーを和ませ、自然から活力を得たように感じました。

11日は8人の参加者で、小金湯温泉近くの豊平川と八剣山を同時に望める景勝エリアを訪ねました。事務局ではフットパスとして一般市民も歩けるルートの調査を続けていますが、定山溪鉄道跡地なども年月を経て雑木や笹、雑草などが生い茂り、周遊できるコース設定の困難さを感じています。事務局では月1回程度の隊員向けウォーキングの実施を検討していますので、発表を楽しみにお待ちください。



【樹間のコース】



【動物の足跡も楽しみ】



【3月11日のウォーキング】



【眼下に豊平川、遠景に八剣山】

## スノーシューとは



スノーシュー (snowshoe) とは、雪の上を楽に歩くための雪上歩行具のひとつ。西洋「かんじき」。素材はおもにプラスチックとジュラルミンで和かんじきより浮力が強くラッセル能力が高い。初めての人も簡単にしかも、子供からお

年寄りまで、気軽に楽しめる雪あそびの道具です。スノーシューを使って森を歩くことをスノーシューイングと言いますが、人気上昇中のウィンタースポーツです。ネイチャーウォッチングにとっても適している道具です。

スノーブーツや長靴に取り付けることができ、軽くて持ち運びにも便利にできています。靴に取り付ける部分はメーカーによってはフリーサイズになっています。自分で自分のスノーシューを踏まないように少し足を広げて歩くことと、列んで歩くときは、前の人、横の人のスノーシューを踏まないようにちょっと離れて歩きましょう。価格1万円前後から2万数千円。



発行：八剣山発見隊（事務局長 瀬戸修一）  
〒061-2275 札幌市南区砒山84番地  
Tel 011-596-2694 FAX 011-596-2721  
E-mail toyamafureai@gol.com  
<http://hakkenzan.com>